

急

五 一 三

受信 〇八五五
譯始 〇八五五

譯了 一〇二〇
電 〇七四二一
空 厄

昭和十年五月拾六日

共 符

局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
A	B	E	J	G	F	D
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

機密第一二一八二五番 三分ノ一

五月十日ノ空襲ニテセウ油槽地帯以西工場ノ全域ニ亘リ被弾千發空襲
 同時全面ノ火災ヲ生ジタルモ西方工場地帯ヨリ逐次消火ニ努メ十日〇
 六一五概ネ鎮火被害情況左ノ通

一工場メタノール器材觸レドラム罐九六水添被害ナシ第三分解第二潤
 滑油被害輕微修理ニ一ノ二ヶ月ヲ要ス九八水添各蒸流第一分解ハ被害
 中程度相當ノ修理ヲ要ス荷造混油電氣及諸管系大破大型一油槽全焼。

一東通註 發信者不明ナルモ三燃ト判斷セラル
 一電信課註 本電三分ノ二既配布 三分ノ三未着
 通七一六〇 オ一六〇 B 一吳通 大塚(宗)

昭和廿五年五月拾四日

五一三 受信〇八四〇 譯始一二三〇〇 譯丁一三丁二 電〇〇六四〇〇一〇
航作 〇
本本



三〇根戰國概報着信艦所・先遣部隊尸・五航空艦隊尸
ヤツブ航空基地・四六警備隊

機密第一二二一八四三三電二分ノ一、二

發 第三〇根據地隊

戰國概報（五月十二日）

一 P P 附近行動敵艦船

(1) 當隊機密第一二二一三〇番電第一項ヲ次ノ通訂正ス

〇五〇〇ヨリ〇七二〇迄輸送船一六（一萬噸級一、八千噸級一二、

六千噸級二何レモ滿載）小機艇二コスル水道出港

(2) 〇七三〇ヨリ一四四五迄輸送船三（八千噸級二一不明）油槽船一

通七〇七五 呂一八九十四（一五七一〇）三通 星野・村山（小森）（

2902

八千噸級滿載)コスソル水道入港輸送船一(八千噸級滿載)小艦
艇一コスソル水道出港六〇度方ニ見失フ

視界内敵艦艇碇泊情況

(イ)コスソル水道大型輸送船二小型輸送船二大型油槽船三小艦艇七

(ロ)PPP周邊大型輸送船一掃海艇二小艦艇三

三 昨十一日ヨリ二三四迄夜戰六〇五五五迄P四U一延一一機TB

四 敵機PPBY二計二一PPニ來襲銃爆撃

(イ)昨十一日以後輸送機一二機九〇度へ一二七〇度へ發一〇機九〇度ヨリ

三一八〇度ヨリ三二七〇ヨリ三五〇(昨十一日計輸送機二三機發四三

着)

(ロ)本十二日一一〇〇迄輸送機四機九〇度へ發五二七〇度ヨリ着。

五二三
至急

受信開始
〇〇四〇〇一〇

丁〇六〇〇

電〇六三一
六三一六五

作 〇

昭和四年五月拾日



佐 磯 口

部隊指揮官

海上護衛隊 七艦隊 佐世保防備隊

共

符

機密第一二一九一五番電 二分ノ二

發 機雷部隊指揮官

貴機密第一二一三三六番電開聯

貴隊ノ腹案對馬東(五ノ一)十三日決定通電施對馬西(五ノ二)前日送

工廠麻急修理(徹夜約三日間)ノ上二十日頃 敷設二及代三ヲ要ス

對馬東(三ノ二)常備用機雷ヲナシ補丸限り佐 世保軍需部在庫ノモノ

充當ノコトトシ永岸丸及敷設艇三隻ニテ高榮丸用機雷及常備用不足分ヲ

佐伯ヨリ本月二十七日頃敷設ノ豫定。

通六九九八一
四一 局一Bケ十一(五二〇〇)佐道

小宮 鈴木 (川口)

人

五一四 受信一七五八 譯了〇三二〇 電〇七二三五

航作概本

昭和廿年五月拾五日



聯合艦隊

符

機密第一二一九一五番電 六分ノ一

照參電第四〇四號「ハラオ」狀況（五月上旬）

一、艦船狀況

(イ)「コスソル」敵艦船ノ「コスソル」ヲ利用スル前線補給ハ活

機ニシテ本旬同泊地出入艦船左ノ如シ

(ロ)出航「二丸」内八千噸級二二隻六千噸級二隻千五百噸級五隻

何レモ滿載「E」〇一八隻「一萬噸級三隻八千噸級一二隻六

千噸級二隻千五百噸級一隻何レモ滿載「D」〇H一六管戒艦

一隻

電信謀証 六分六分、二、三、四、五、六既配布

通七九三五 島一ヒラ十八(一五七)〇(三) 高原(小澤晴)

五 一三
 受信一七三七
 開始二〇二九
 終了二三二七
 〇〇六六九六
 六六九七
 航作
 本概
 〇

昭和廿五年五月拾四日



聯合艦隊
 共
 符

密電一二一九一五番電 六分ノ三五

(2) 入泊の送船四二隻、一萬噸級一隻八〇〇〇噸級三四隻六〇〇噸級二隻一五〇〇噸級五隻何レモ満載、油槽船一七隻、一萬噸級三隻八千噸級一三隻一五〇〇噸級一隻何レモ満載、國産船二隻、三隻舟艇二隻、竹筏五隻、魚船一隻

(3) 右ノ外、五日夕中型の送船一三隻「ハラオ」本島南方海面ヲ東北に送セル一形ヲ認ム

(4) 又出港の船中甲板上ニ飛行機ヲ搭載セル送船二隻、油槽船四隻アリ

通七三三二
 七三三二
 且一日ヲ六月(一五七一〇三)三送
 一(久石田)

一本管六分ノ三四未業

「ハバラオ」本島周遊

七七〇ノ井旬（B1二四カ六機F四〇）

(1) 來襲機B1二四 一五七機F四〇 一四五機（ニ比シ）B1二四ノ來

襲ハ頻繁ニシテ三日六日十日ヲ除キ午前十二時二機編隊ヲ以テ

「アラカベヤン」及「コロール島」ノ高射砲陣地ニ投擲セリ

(2) 戦果B1二四機墜二機墜破四機五月四日墜機ノ際捕虜一ヲ該地ニ

「本管六分ノ六三四六未業」

(二)

人

五 一四 受信一九三〇 譯了〇二四五 電〇七一九七
 一五 詳始〇〇一五 〇七一九六 和廿年五月廿五日
作本

聯合艦隊



機密第一二一九一五番電 六分ノ三四

(イ) 十日一八〇〇ニ於ケル「コスソル水道」状況左ノ如シ

輸送船一六(一萬噸級一 八千噸級一二 内一〇ハ甲板上舟艇

一ヲ搭載 六千噸級一 千五百噸級二 何レモ滿載(油槽船三

一何レモ八千噸級滿載 内一ハ甲板上飛行機五一六ヲ内一ハ舟

艇四ヲ搭載(驅潜艇一其ノ他一 舟艇二後新案見船一

(ロ)「ペリリュール」現在迄著變ナシ

(ハ)「ヤツブ」本旬周邊艦船動向頗繁ニシテ十日迄ニ望見セル艦船

左ノ如シ

巡洋艦一 輸送船三 驅潜艇七 艦種不詳一

通七九九四・七九九一 呂一Bヲ十四(一五五二〇C)三通 半澤・安彦(飯田)(一)

三、航空状況

ペリリュー飛行場發進一二四三ニシテF四U一

三二%TBFI一一%C四七 四二%B一二四 一二%其ノ

他三%着陸一〇〇〇ニシテF四U一 三二%TBFI一 九

%C四七 四七%B一二四 八%其ノ他四%發着共ニ先旬(發進

一一二〇機着陸八二三機)ニ比シ稍増加C四七多キハ註目ヲ要ス

(電信課註、本電六分ノ三五既配布一末着)

①

五 一四 受信一八一〇〇
譯始三一〇〇

譯了二三二二五 電〇七三八六

航作 概〇
本

昭和廿五年五月十六日

共 符



聯合艦隊口

設密第一二一九一五番電 六分ノ六

通冠先次長威聯合艦隊

來襲機日一二四 一五七〇四〇一、一七七七〇一、九六〇四〇一

一四五ニ比シ日一二四ノ來襲ハ頻繁ニシテ三日六日一〇日ヲ除ク
午前中約四二編隊ヲ以テ「アラカベサン島」コロール島ノ高射砲陣
地ニ投擲セリ

戰果日一二四擊墜二機撃破四機五月四日擊墜ノ際捕虜一名ヲ捕獲セ

ヤツノ島本術來襲機五〇ニシテ（先旬五九）ノ著變カシペリリユ一
島地方諸島我ガ「マカラカル」敵艦艇機發作戦ハ着々其ノ成果ヲ發
揮シアリ一日迄ニ判明セル戰果左ノ如シ

通七九四〇 呂一ブラ一四（一五七一〇）三道 賀屋（小澤滿）

(既ニ報告ノ第六警備隊ヲ含マス) 駆潜艇撃沈一大破四中破二人員殺傷一〇〇以上我損害ナシ。

(電信課註 本電一ニ三四五既配布)

昭和廿年五月拾四日

至 魚 一三 受價一六〇四〇〇 關丁一七〇〇 電〇六五三八 參就作極 本本〇



東京通信隊・海軍總隊
航空隊除口・南西方面艦隊除口・支那方面艦隊各口・二連支隊除口
海軍總各口・台灣航空隊・馬公・高雄各根口・基隆防備隊
高雄警備隊・海警口

秘密第一二一九三〇番電 二分、一

五月十一日敵機來襲狀況

一、〇九〇〇一四四〇ノ間、敵機計一二五機（PB四、Y一機、D一二四、四五機、I一二五、五八機、P一三八、六機、P一五一、一五機）數群ニ分レ南方ヨリ台北台南高雄花蓮港及台南各地區ニ來襲、銃爆撃及偵察機遂次南下脱去セリ
二、戦果 撃破B一二五 二機（海軍側虎島基地）
三、現在迄ニ判明セル主ナル被害

(4) 海軍側

(一) 高雄地區警備隊兵舎四倉庫及水交帶炎上死傷四名
(二) 虎尾基地中線ヲ越小破兵舎十炎上死傷一名

電備隊註 六〇二分、二電配布

通七 一三八 呂一 B (九一四三) (高) 二機 小原 (松山)

五
一三
受信
開始
一一〇二七
一二五八

一四〇二
一四〇二
一四〇二
一四〇二

高雄警備府

航空
本本
〇

昭和廿年五月拾四日



東 通・海軍線除口

一航空隊除口・南西方面艦隊各口・支那方面艦隊各口
二遺支隊除口・海上護衛總各口・海南警口・台灣航空隊・馬公根口
高雄根口・基隆防備隊・高雄警備隊

機密第一二一九三〇番電 二分ノ二

(甲)陸軍側死傷七名

(乙)民間側(各地綜合)

(一)家屋燒失倒壊約一二〇〇戸

(二)工場燒失倒壊約二〇棟(台南製糖工場倉庫四棟纖維會社原料倉)

庫一二〇會

(三)死傷約一四〇名

(四)本日台南地區最毛激烈ナル攻撃ヲ受ケタリ

一電信誤註 本館二分ノ一未達
通七一一三九 呂一八一九一八(九一四五)高二放 牧野(小)



厚木航空基地

東通・横通

鳴尾航空基地

一 信 〇二二〇〇
 二 〇二二〇〇
 三 〇三〇〇〇
 〇〇六六一八八
 九 航作 〇(参)
 本概

昭和廿年五月拾参日

機密第一二二〇〇六番電 二分ノ一二

發 第三〇二航空隊派遣隊長

宛 三〇二空司令

通報 大本營海軍參謀部第一部長 横須賀鎮守府司令長官

一 使用基地ヲ伊丹ニ決定セリ

二 當基地第三三二航空隊兵力使用中ニシテ該兵力整備シアルヲ以テ

後發隊ヨリ左記人員削除セラレ度

(イ) 人員要務士二名 (本部ヨリ派遣ノモノ) 兵器員二〇名 衛生兵一

名 衣類長主計兵五名
(ロ) 物件機銃彈並ニ三番三號機強機臺手布食器

六九九二一
六九四六

呂一八九十一

〇

福島 末光 (岩崎)

人

五 一三 受信 〇〇三二〇八 譯了 〇六五〇 電 〇六二六三 作 編

緊急

二六特根戰團檄報着信艦所・三南遣艦隊各P・三南遣艦隊P



機密第一二二二〇三一番電

六五B戰團檄報 十二日

六〇七三〇・〇八五〇單發各二 カウ灣制壓戰果被害ナシ

ニタルハ出港〇六五〇大型上陸用舟艇一針路東入港〇七三〇D一大

型上陸用舟艇一〇九三〇D一大型T一(滿載)一上陸用舟艇四一

一〇〇大型油槽船五(滿載)一碇泊一八〇〇T大型一五中型七小型八

大型油槽船一病院船一D二驅潛艇九哨戒艇三海上トラツク二九魚雷

艇三上陸用舟艇大型一九中型四普通三〇

三港ロタイ發進機針路北乃至西大型三三中型一四小型四計五一

通七〇一七

呂一Bラ一八(六)二二五

補本(小)艦

昭和廿年五月拾參日

昭和廿年五月拾四日

五一三 受信一〇二一〇五〇 譯了一四一四 電〇六四三七 航作概本〇



高二情報着信處所。天一號作戰部隊各口ト支那方面艦隊口。二遣支艦隊口

機密第一二二二二一番電 三分ノ二

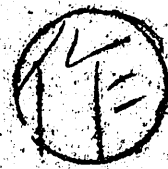
(回)天偵兼JL系三五機(九)哨戒機發見ニ仲良港右系二機入系爆撃ノ二隊二機

(ハ)四月下旬後ニ二〇隊三〇、一暴ニ(五隊五機)晝間灣内。ニ(電信課註 本電三分ノ二未着)

通七〇一六 呂一B女一一(四五七二五KC)高二放才木(瀧川)

昭和廿年五月拾四日

五 一三 受信一四五六 譯了一七三〇 電〇六五一三
開始一六五〇 參航作櫛 本本〇



東京、高雄、佐世保各通信隊。聯合艦隊
石垣島警備隊
宮古島警備隊

機密第一二二一五三番電

宛 高雄警備府長官

通報 〇長官 佐藤參謀長

戰團報

スピートファイヤーヲ含ム敵艦上機延七四機〇九〇五。二四機一四五
一六機一六五〇。二二機主トシテ陸海軍飛行場制壓一航過銃爆撃自〇六
三〇至一七四五。三乃至四機編隊ヲ以テ常時上空哨戒銃撃在空時間概
二時間。戦果露隊一撃破一。被害海軍航空隊三角兵舎四棟トラツクヲ
焼失輕傷二名。

通七二二二 天二Bケ八(一三五二〇K) 高橋 黒野(松山)

2082

人

五 一四

受信〇八三六
開始一八一五

譯了一四〇〇

電自〇〇七七〇〇三三

航作編本〇

厚木航空基地



横濱、幌筵、占守、千歳各航空基地

海護總局・航空・聯合艦隊司令部・一二航空艦隊司令部・四一空廠

機密第一二二三三七番電 三分ノ二二三

一〇〇〇〇信令作第六八號へG.B.電令作第一二號一及第一〇航空艦隊司令部

密第一〇〇一九一九番電ニ依ル第一幌筵及第一占守島航空基地第一千歳

航空基地間空襲ハ左ニ依リ實施

一、期日五月下旬飛行機ヲ指揮官ノ定ムル所ニ依ル

二、機體實施セシメラルル數ハ同次計畫機體陸攻隊ノ順ナリ一第一次

種零戦一二機第二次陸攻一機第一次空輸セシメラルルモノ別ニ九六式

陸攻一機ハ單獨空中輸送ヲ實施
田中(見)

道七七六四九・七六八八呂一〇一〇
田中(見)

昭和廿五年五月拾四日

三行動

一) 空輸員一六名轉勤者一〇名送引ノ爲燕陸上攻撃機一機(第一次

第二次ノ誘導機千歳ニ於テ往航ノ際所要機裝實施一及零式輸送

機一機(千歳以北ノ第一二航空隊ニ輸送機ニ依頼)ヲ五月十五

日〇八〇〇厚木發手就經由第一機進及第一占守ニ派遣

二) 爾後ハ空輸機ノ空輸準備完了次第誘導機及空輸機隊ハ第一作戦

地ニ集合ノ上飛行機隊指揮官ハ空輸期日ヲ關係各部ニ通報報告

ノ上空輸ヲ實施ス

四) 通信使用電波八九一五KC使用暗號書多現用呼出符號燕陸攻一ケワ

二燕零式輸送機(千歳以北第一二航空隊)輸送機一ケワ四四。

昭和廿年五月拾陸日

五 一三 受信 〇〇二五三 譯了 〇三二六 電 〇〇六二六八 航 作 〇
譯始 〇三〇五 〇六二六九 本

作戰特別緊急

共

符

一機動基地航空部隊作戰命令着信艦所



機密第一一二二三五九番電 二分ノ一、二

天航空部隊信電令作第四號

一 本十二日 P U 偵察ニ依レバ敵機動部隊ハ已ニ出撃セルコト確實ニ

シテ今夜ノ夜戦來襲狀況判断九州方面近接ノ算アリ

二 丹作戦決行期日ヲ當分延期

三 明十三日對機動部隊作戰在ノ通致ム

(1) 關東空部隊ハ地點ヨイ〇コヲ中心トスル半径四〇哩圍ノ範圍
敵攻撃

(2) 一七一部隊ハ〇四三〇發進部并崎ノ一〇〇度ヨリ二〇〇度二五

〇海關ノ索敵

(3) 其ノ他第二準備姿勢(戰團機ヲ除ク)。

通七〇〇一八 於一六(三九三七、五二〇) 佐二放 山本(小澤機)
七〇〇二二 一KFCB放

2085

昭和廿年五月拾日

五 一 三 受信 〇〇八三五六 譯了 一〇〇五 電 〇六三九八 補綴 〇
至 急 東 通・横 通 母 島 警 備 隊

父 島 根

機密第一三〇一〇〇番電 二分ノ一

海軍省 海軍本部 總務部長 横領參謀長 兵備局長 大海戰九運險部部長
長 横須賀軍需部長 軍務局長
通報 大海參一部長

送本機密第一五一四〇七番電ニ關シ如何ナル御意向ナリヤ第七經理
部電源一RVA發電機ノ關係モテ現用一三號電探送信機以下電源
電測滑右ト同型一三四(D.P.L.S.Q)ハ故障生起シ易ク連日長時間
使用ニハ尙多數ノ補用品ヲ要シ差當リ該部品ヲ父島方面特別根據地
隊宛請求セシモ不如意ニシテ本島電探送信機哨戒任務遂行上現在緊
急必要ナリ

電信課誌 本電二分ノ二未着
七〇二六 呂一ヨラ十八(3) 機通 内田(渡浪)

昭和廿年五月拾四日

五 一三 受信〇四〇九 詳始〇九〇〇 了〇九五〇 電〇六六二九 補成〇

至 急 東京、横濱、各通信隊 母島警備隊

父 根 東京、横濱、各通信隊

機密第一三〇一〇〇番電 二分ノ二

尚指示機低壓整流管用電線(一二二)ニ父島ニ修理請求中ナリ
前否不明ニシテ任務遂行上ニ三 電波探信儀一基真空管及補用品三組空
中線二組三相用交流發電機二基配電盤共二二〇ボルト用電線四〇〇米最
近便ニテ送付願度(父島方面特別根據地隊ニハ電波探信機四車二基海軍
六基ノ等ナルキ本島ニハ二基ニシテ交互ニ一日一九時向死全力連日作動
セシメテアリ)當隊機密第一三五二三〇番電關聯ノ部頭ハ電線機關係ナ
リ。(電信課註)本電二分ノ一既配布
通七〇二七 五月十八日 高原(金森)

2087

14/19

五
一三
受信一七六一〇七
譯始一七六一〇七
譯了二七五〇
電〇六五〇九
參作
本

三〇 戰國報着信艦所

四六 警備隊

機密第一三〇五五三番電

四六 警備隊報第一二九號

十二月一〇〇S Bニ〇I一、九機R六E I一、P B Y I一各一

機來襲第一機子場ニ投彈戦果甚ナシ

三〇七〇〇 艦機一雙ヤツブ島ノ南東ヲ西航大型機通過九ノ内南西

航六ノ

七二七三 呂一Bラ一四一五七二〇Rノ三通 大石(塩田)

昭和五年五月拾四日

人

昭和廿年五月拾四日

五 一 三

受信 一三〇五

譯丁 一三五

電 〇六四四

三

航作
本機

緊 急

相 模 航 空 隊



五 航 空 隊 隊 長

一七 一 航 空 隊 機 長

一七 一 航 空 隊 機 長

機 密 第 一 三 〇 七 一 四 號 電

第二十聯合航空隊信管令第十三號（依九一七一空彩雲整備作業協力員及同隊人ノ勤務者）第二十聯合航空隊機密第一二一一五八番電（機密）ヲ左記ニ依リ出發セシム

第一次十四日一六〇四度屋着少尉一名録成員（勤務者）四〇名

第二次十五日一四〇一度屋着大尉一名録成員五名高機整三五名

第三次十六日一六〇四度屋着高機整（勤務決定者）三〇名

通七 一六三 呂 一五六一（一） 横 濱 岡 井（久保田）

昭和廿年五月拾四日

五 一三 受信一〇九一〇〇 譯了二一三〇 電〇六三七六 航作 本概〇

作戰特別緊急

無線電所用共通符號



第一機動基地航空部隊
天機作戰命令着信處所

機密 第一三〇七五三番電

296

T F B 信電令作第七號

今次來襲セル敵機動部隊ニ對スル作戰複案左ノ通

十三日十四日第一戰法ニ準ジ作戰ス

(1) 後方基地ヨリ夜間哨戒終夜攻撃實施

(2) 十四日早朝爆戰及彗星全力ハ戰術機全力掩護ヲ以テ強襲

(3) 七〇一部隊ハ美保ヨリ右攻撃ニ策應

三續後敵情ニ依リ七〇B特攻兵力ヲ當方面ニ進出機且作戰續行。

通七四五九 オ一六(七八七五) G P O 田中(木) 下()

人

五 一三
緊 急

受信一三五五
譯始一三二三

譯了一四一六 電〇六四二五

作 本概

昭和廿年五月拾四日



● 吳鎮口。吳防戦
● 海上護衛總口。第一機動基地航空部隊口。串良航空基地

機密第一三〇八三六番電

佐伯航空隊戦闘概報（五月十三日）

一〇七二〇ヨリ〇七二六迄敵空軍戰爆聯合約五〇機ノ銃爆撃ヲ受ク
種五〇〇ボンド及ロケツト爆弾

二敵機撃墜三機

三被害 戦死傷若干其ノ他通信線送電線水道管切斷ノ外輕微

通七 一七五 口一 B 夕十一 (B) 吳 村山 (雨 谷)

五 一 三

受信 一三三五
譯始 一三五八
譯了 一四一九
電 〇六四二六

抄作

本機

昭和廿年五月拾四日



● 吳鎮口・吳防戰

● 佐伯航空隊

● 海上護衛總口・一機動基地航空部隊司令官・申良航空基地

機密第一三〇九〇四番電

佐伯航空隊戰鬥速報（五月十三日）

佐伯航空隊機密第一三〇八三六番電ニ左記ヲ追加ス

飛行場滑走路使用不能ナルモ滑走路東側幅二〇〇米長サ八五〇米（芝生有ラユル部分）使用可能。

通七 一七〇 呂一 B ケ十一 (B) 吳通 永田 (小林)

緊
急

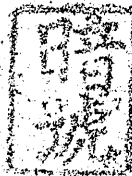
五
一
三
受信一四二二
開始一四三二

譯一四五六

電〇六四四一

作概〇航本
本

昭和廿年五月拾四日



天
號
作戰部隊指揮官

機密第一三〇九四〇番電

出水航空基地

出水基地戦闘速報(十三日)

〇八二五機載機(日六日・七日)延一七機北東方ヨリ侵入至トシテ

施設銃爆機戦闘機及防空砲火ニ依リ激撃兩方ニ撃退

一機果一機墜五機

共被害 輕微(飛行場使用不能飛行機航空廠ニテ修理中ノモノヲ除キ被

害ナキ見込)

其
其
他
調
査
中
〇八四五

通七二二九 於十五(七八七五)一機日放

清水(酒巻)

人

五
一三
急

受信一五三三
譯始一六二五

譯了一六四〇 電〇六四七三

作機〇

昭和廿年五月拾四日



海

警

口

支那方面艦隊口

東

通海軍總隊口

機密第一三一〇四五番電

通報 大海參一部長 軍務局長

獨洲島航空基地破壞ノ上同島警備兵力撤收差支ナシ。

通七二四一 品 日 夕 一 一 一 四 九 三 〇 四 〇 上海 岩田 (益 田)

五 一 受信 〇〇二五三 〇二五〇 〇六六八〇 作信 〇

昭和廿年五月拾四日

作取緊急

一 航艦 〇 臺灣空

一 〇 報表示 〇 基隆在勸武官

機密第一三一 一一五番電

發 高雄警備府參謀長 宛 石垣警備隊司令 基隆防備隊司令

一 秘匿及防禦上連絡港ハ變更ナス 左ノ通定メラル

二 突入時後ハ警備航行危險ナルト夜間ニ於ケル位置決定並ニ接岸困難ニ

三 使用船艇中特設艦船二隻ヲ五隻ニ改メ

四 警備隊標準中藥ハ極特務送一五〇〇艇特設艦船二二〇〇艇ニ改メ

五 再使用電波ハ四〇〇二五

七五七三 於十五 (五七三〇) カニヶ谷 清水 (石井)

作戰緊急

五 一三 受信 一四二〇
譯始 一四二二

譯了 一五〇〇 電〇 一四二九

昭和五年五月拾四日
航空 六

木更津航空基地

神ノ池。茂原。百里ヶ原郡山各航空基地

明治。鹿屋各航空基地。一三。五三各航空基地

機密第一三一 一五七番電

第七基地航空部隊電信令作第七號

第七基地航空部隊電信令作第二三八號

一 進出兵力ハ爾後ノ練成ヲ考慮ヒザル可動全力トス各隊ハ十四日及十

五日ノ可動兵力ヲ前日一九〇〇迄ニ報告スベシ

二 右轉送ニ伴ヒ要空輸整備員(含ム兵員)ハ一機當一・五名以下送

地物件ハ陸送一週間分トス各隊ハ要空輸人員物件(重量)ヲ逐ニ報

告スベシ

通七一九一 信一Bケ十一 (七九七〇K) (七HGB放 村尾(阿波)

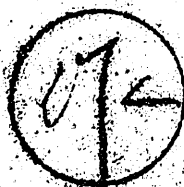
人

一五 一三 受信一八三〇七 譯了二二二一五 電自〇六六四七 電至〇六六四九 參作 本概

作戰緊急

第五基地航空部隊

第五基地航空部隊戰國機報通信所



機密第一三一二〇三番電 四分ノ一三四

新竹攻撃部隊戰國機報（五月十二日）

一、天山三機一六二〇一、一六三〇ノ間ニ發進一機機二〇〇八嘉手納沖ニ

テ航行中ノ〇雷撃效果不明石垣經由十三日〇五五〇歸着 以ノ防禦

砲火ハ極メテ熾烈ナリ以下一各機搭乗員歸投報告

三番機一九二九浩國島ノ二二五度一〇埋附近ニテA一B三T三〇ノ

艦船群（右ハ一四〇〇）陸軍情報ニ依ル嘉手納沖所在

（以下四分ノ三）

海中ニ突入スルヲ確認其ノ後同地點附近上空ニ達スルヲ海上處々ニ

通七三四四七三四五 呂一Bケ十一 一三三四七五七（五月廿三日放 咲花。傳崎（阿波）

昭和廿年五月拾四日

油ヲシキモノ燃キアルヲ發見セリ右ノ情況ヨリ見テ二番機ハ三種
不詳一隻ヲ墜沈後防禦砲火ニ依リ被弾自爆セルモノト判斷ス

二、茲數日間ノ敵信傍受及墜機敵機押收資料（陸軍ヨリ借用中）ヨリ

見ルニ友軍機鳥島附近ニ達スルヲ連絡柱絶敵電探ニ依リ繼々捕捉

セラレ同時ニ敵ハ空襲機及陸線展張ヲ發令尙攻機機嘉手納上空

ニ達スル頃ニハ殆ど旋泊艦船ヲ認メザル狀況右以外港口ニ於ケル

敵ハ友軍機ヲ攻メ察知スルニ直ニ敵艦附近海面ヲ航行シテアルモ

ノト判斷セラレ

（京通註） 本機機字極々多シ

作戰要略

五 一三 受信一八七四五 譯了二〇四〇、電〇六七〇三

● 台湾航空隊

● 五基地航空部隊

● 五基地航空部隊戰團概報着信機所



機密第一三一二〇三番電 四分ノ二

艦船ト兵力向一ナリ(西航中ヲ発見空母ニ對シ雷撃セルモ效果不明防
砲火ニ依リ右昇降舵右三番「タンク」右翼根元ニ被彈石垣島ニ不時
(應急修理ノ上十四日朝歸投ノ予定)ニ番機一九四〇「ト」速送
ヲ機上ニテ受信同時刻ヨリ三番機敵発見直後附近間近ニ大火柱一
ヲ即座ニシテ海中ニ没入其ノ直後火達燭トナレル飛行機一機。

一 電信譯註

本電四分ノ一、三、四既開布

通七三三八

呂一〇ケ十一(一二三四七、五〇〇)放末光(松山堀)

本概

昭和廿年五月拾四日

昭和廿年五月拾四日

五一三 受信一九〇五 譯了二二五〇 電〇六六三五 參作本紙

至急

海軍總隊口・東通

高

P

305



海上護衛總口・南西方面艦隊口・第一航空艦隊
第二遣支艦隊口・海南艦口・馬公方面特根口
臺灣空・基隆防備隊・高警部隊

機密第一三一二三一番電

五月十二日敵機來襲狀況

一〇一三〇ヨリ〇三三〇ノ間大型機一機淡水北方地域ヨリ西海岸ヲ南
下哨戒

二〇八四八ヨリ一五三〇ノ間B1二五 三機B1二四 一機P1五一
二機PB四Y一機夫々高雄南西方ヨリ侵入本島周邊ヲ哨戒一周ノ上
臺東南東方洋上ヲ脱去ス

三二一〇〇ヨリ〇四〇〇ノ間(十三日)大型機六機東海面ヲ哨戒ノ後
基隆北方ニ脱去ス 内一機ハ新竹市ニ侵入投擲セリ

通七四二〇 呂一Bヲ十八 (一三五二〇K) 高通 品田(阿波)